

重要な構成要素「高木屋老舗（北）」

建築（店舗）：大正期頃

参道の景観を構成する要素

「高木屋老舗（北）」は、向かい合う2棟の建物の北側店舗で、葛飾柴又の歴史ある名物「草団子^{だんご}」のほか、おでんや茶飯などの食事を供する店舗です。昭和以前に建てられたと思われる店舗、厨房、菓子工場を兼ねた参道に面した2階建ての主屋と、1965（昭和40）年頃に後方に接続して増築された2階建てで、1階が菓子工場、2階が住居となっている建築から構成されています。

主屋は、間口一杯に参道に沿って伸びる表屋部分と、間口より狭く奥行き方向に伸びる角屋部分^{つのや}からなっています。庇^{ひさし}や看板によって演出された重厚な表構えや店先の対面での販売形式、参道から見える土間の店内などは参道景観を構成する極めて重要な要素になっています。

伝統的な2階建て町屋建築の建物の正確な建築年は不詳ですが、柴又街道敷設に伴い建物を曳家^{ひきや}したと伝わっています。敷地内には、店舗だけでなく、奥に居住空間や作業場などの複合的な要素を展開させており、団子工場は参道北側の敷地に、和菓子工場は向かいの参道南側の敷地にありました。